

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2026.2.26発行

vol.144



「共に生きる社会」めざして

高校生 作文コンテスト表彰式

主催 国際医療福祉大学・毎日新聞社
後援 文部科学省・全国高等学校長協会



受賞者と審査委員そろっての記念撮影

特集

新春のごあいさつ

30周年特別企画第四弾

高校生作文コンテスト表彰式



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

CONTENTS

vol.144 February 2026

02	特集①
	新春のごあいさつ 高木邦格理事長／鈴木康裕学長 ／矢富裕大学院長
04	特集②
	開学30周年 特別企画 第四弾 特別講演採録
06	特集③
	高校生作文コンテスト 表彰式
07	グループトピックス①
08	キャンパスレポート
	大田原キャンパス 成田キャンパス 東京赤坂キャンパス 小田原キャンパス 大川キャンパス
10	2025年度 学生の活躍
12	特集①
	新春のご挨拶 各病院長・施設長
13	令和7年度 学位記授与式・卒業式／ 令和8年度 入学式
14	グループトピックス②
	大田原キャンパス 国際医療福祉大学成田病院 国際医療福祉大学病院 国際医療福祉大学三田病院 国際医療福祉大学熱海病院 国際医療福祉大学市川病院 山王病院
16	キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介
	軟式野球部 (大川キャンパス)



高木邦格

国際医療福祉大学・
高邦会グループ理事長



アジアを代表する医療福祉の総合大学をめざして

2026年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本初の医療福祉の総合大学として1995年に栃木県大田原市に開学した国際医療福祉大学は、昨年開学30周年の節目を迎えました。昨年11月1～3日には、高円宮妃久子殿下ご臨席の下、本学ゆかりの皆様をお招きした開学記念式典・演奏会をはじめ、同窓会祝賀会、開学記念大学祭を開催いたしました。一連の記念行事には3日間でのべ17,100人にご参加いただきました。本学の30周年をさまざまなかたちでお祝いいただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。

本学は現在、医療福祉分野のほぼすべての学びの領域をカバーする11学部28学科を展開し、大田原、成田、東京赤坂、小田原、大川の全国5つのキャンパスには、大学院生を含め約10,000人の学生が学んでいます。これまでに輩出した約37,000人の卒業生は、それぞれに各専門分野で責任ある立場として地域の医療福祉に貢献しているほか、国際的にも幅広く活躍し、国内外で高い評価をいただいております。本学はこれからもアジアを代表する国際的な医療福祉の総合大学として、日本およびアジアの医療福祉分野の発展と医療福祉専門職の育成に貢献できるよう一層努力してまいります。

2017年に開設した医学部は昨年三期生が卒業しました。三期生は留学生を含む全員が医師国家試験に合格し、合格率100%(全国第1位)を達成しました。本学が日本の医学部で受け入れ最多となっている留学生の皆さんには、将来母国と日本の架け橋となってくれることを期待しています。そして本学は今後も、アジアトップの医学部となることをめざし、さらに充実した教育環境を実現してまいります。

卒業生とともに支え合う本学の未来

2026年、本学グループでは、新たな大学、学科、病院を開設予定です。4月には、国際医療福祉大学・高邦会グループの発祥の地である福岡県に、県内唯一の音楽大学となる福岡国際音楽大学を開学いたします。福岡県や福岡の経済界からの強い要望により開設を決定した福岡国際音楽大学の学長には、東京藝術大学第10代学長を務めた国際的ヴァイオリニストの澤和樹先生をお迎えするほか、劇団四季の宇都宮直高先生や東京音楽大学副学長の岡田敦子先生など一流の音楽家を講師として招聘し、アジアを代表する音楽大学をめざします。

また、同じく4月には東京歯科大学市川総合病院を承継し、国際医療福祉大学市川総合病院を開院いたします。九州では、国際医療福祉大学・高邦会グループの福岡中央病院も新棟に生まれ変わり、1月より診察が始まっています。

さらに、海外の有力病院への資本参加も進めています。モンゴルの医療水準を牽引するインターメッド病院との資本業務提携に合意し、3月には、「国際医療福祉大学インターメッド病院」という本学名を冠した初の海外の病院が誕生します。

本学は今後も、グループ全体の機能強化を図りながら、新たなステージへと視野をひろげ、教職員一丸となって取り組んでまいりますのでよりしくお願い申し上げます。新しい1年が皆様方にとって幸多き年となりますよう祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。



鈴木康裕

国際医療福祉大学
学長



2026年の新春を迎え、皆様に謹んでご挨拶を申し上げます。昨年、本学は開学30周年という大きな節目の年を迎え、11月には開学の地・大田原キャンパスにて記念行事を執り行いました。本学ゆかりの皆様とともにこれまでの歩みを振り返るとともに、次の時代に向けた医療福祉の総合大学としての使命を改めて確認する1年となりました。

本学はこれまで、教育・臨床・研究が有機的に結びついた体制のもと、高度な実践力と豊かな人間性を兼ね備えた医療福祉専門職の育成に真摯に取り組み、医療福祉分野に数多くの優秀な卒業生を送り出してまいりました。一方で、医療と教育を取り巻く環境は大きく変化し、少子高齢化の進行や医療人材不足、物価や人件費の上昇などにより、年々厳しさを増している現状があります。



矢富裕

国際医療福祉大学
大学院長



新たな年の初めを迎え、皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。旧年中における、本学の発展への皆様方のご尽力に心より御礼申し上げます。

本学は、1995年に日本初の医療福祉の総合大学として開学し、「共に生きる社会」の実現を建学の精神に掲げ、その理念のもと着実に発展してきました。1999年には、わが国の保健・医療・福祉の分野において指導的な役割を担うことができる高度医療専門職人材の育成のために大学院が開設され、以後、その規模を拡大させるとともに、研究・教育環境を充実させてきました。これまでに約5,300名もの修了生を社会に送り出すことができたことは、本学にとって大きな喜びであり、誇りです。

こうした時代において本学に求められるのは、変化の中でも自ら考え、判断し、行動できる医療福祉専門職を育てることだと考えています。本学は今後も「教育の国際化」「地域医療を支える実践的教育」「DXを活用した教育・業務の高度化」を柱として、海外の教育関連施設や医療機関と協力関係を築きながら教育環境の整備に努め、本学グループ施設の臨床現場と密接に連携した学びを通じ、現場で真に求められる力を身につける教育を推進してまいります。

とりわけ本年は、留学制度の見直しや地域連携機能の強化、AI活用による業務効率化、研究に専念できる環境整備を進め、大学全体の基盤強化に取り組みます。教職員と学生が力を発揮できる大学をめざし、社会に貢献する人材の育成に努めてまいります。

本学がこれまで歩んできた道のりは、多くの皆様の理解と協力によって支えられてきました。教育の質を高める不断努力と、現場の声に耳を傾ける姿勢を大切にしながら、学生一人ひとりが将来に希望を持ち、安心して学べる環境づくりを進めていくことが、学長としての責務であると考えています。社会の変化が激しい時代だからこそ、大学が果たすべき役割を見失うことなく、教育と研究を通じて次世代を担う人材を育て、医療福祉の未来に責任を果たしてまいります。

本学の理念を共有し、ともに歩んでくださる皆様との連携を深めてまいりますので、一層のご支援・鞭撻をよりしくお願いいたします。

昨年2025年には開学30周年という大きな節目を迎え、11月には、多くの方々のご支援のもと、大田原キャンパスを中心に素晴らしい記念式典が開催されました。これまでの本学の30年の歩みを振り返るとともに、次なる未来への確かな一歩を踏み出す機会となりました。

しかし、皆様が実感されているように、世の中は激動しており、先行きを見通すことが困難な時代・世界になっています。大学を取り巻く状況も変化し、着実に厳しくなっています。このような状況下、現状に満足して現状維持を目標とすることは、それは、後退を意味します。本学がさらなる発展を遂げるためには、変化を恐れず、新たな挑戦を続ける姿勢が必要です。共生社会の実現という建学の精神、そして「人間中心の大学」「社会に開かれた大学」「国際性を目指した大学」という三つの基本理念という、いわば、本学の基本・初心を忘れず、しかし、大きく変わりゆく時代の変化に柔軟に対応しながら、さらなる発展を遂げることを願っています。

本学大学院は、これまで多種多様な柔軟な教育、さらには生涯学び続けられる教育環境を提供してきていますが、今後も社会のニーズをいち早く察知し、それに応えるべくダイナミックに進化し、その存在価値を高めていけるよう努力していきたいと思っております。

新しい年が、皆様方にとって明るく、希望に満ちた一年となりますことを心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒よりよろしくお願い申し上げます。

新春のごあいさつ

開学30周年特別企画 第四弾 特別講演採録 武見敬三氏、杉村太蔵氏、鈴木裕病院長 3氏が特別講演

2025年11月に行われた本学の開学30周年記念式典では、元厚生労働大臣の武見敬三さん、元衆議院議員でタレントの杉村太蔵さん、国際医療福祉大学病院の鈴木裕病院長の特別講演が行われた。元厚生労働省の立場から現在の創業の課題、医療福祉分野の教育の在り方について本学の歴史と絡めて語った武見さん、自身の波乱万丈な人生体験とその教訓を、ユーモアを交えて話した杉村さん、自らの白血病体験を経て、患者の視点も含めた今後の外科治療のあり方を説いた鈴木病院長の講演を以下に採録する。



●大田原キャンパス 大講堂で行われた特別講演

武見敬三氏 特別講演

「国際社会とともに考える、これからの医療と大学の役割」

私はこれまで厚生労働行政や国際保健の分野に携わってきましたが、現在は国際保健分野の有識者として活動を続けています。本日は、大学開学30周年という節目にあたり、国際医療福祉大学が果たしてきた役割と、今後の医療の在り方についてお話ししたいと思います。

世界の医学部はいま、大きな転換点にあります。国内需要のみに対応する体制では不十分で、国際社会の医療・保健ニーズに応える視点が不可欠となっています。その中で本学は、教育・医療・介護を横断的に捉え、チーム医療・チームケアを建学当初から実践してきました。医学部設立以前から附属病院を整備し、実践的な臨床教育の基盤を築いてきた先見性は高く評価されるべきものです。

私の父は「医療とは医学の社会適応である」と語っていました。医学は社会の変化と相互に影響し合いながら発展するものであり、医療はその接点に立つ存在です。この考え方は、国際医療福祉大学の

教育理念にも深く通じています。

一方で、日本の医療は創業や先端医療の分野で課題を抱えています。再生医療や遺伝子治療の進展に十分対応できず、国際的な創業エコシステムから遅れを取っている現状があります。さらに、高額化する先進医療を国民皆保険制度の枠内だけで支え続けることには限界が見え始めています。今後は自由診療や民間保険を活用しつつ、段階的に制度へ組み込む柔軟な仕組みが求められるでしょう。

加えて、日本は超高齢化と単身世帯の急増という未曾有の人口構造変化に直面しています。特に大都市部では、2030年代以降、医療・介護需要の急増が予測され、十分な制度設計が不可欠です。

こうした課題に対し、広い視野で医療・保健・介護を考え、人材育成と研究、国際貢献を同時に担える大学の役割は極めて大きい。国際医療福祉大学が今後も先駆的な存在として、国内外の医療を支える人材を輩出していくことを大いに期待しています。



杉村太蔵氏 特別講演

「人生何が起きるかわからない——チャンスをつかむ技術と折れない心」

開学30周年、誠にありがとうございます。本日はお招きいただきありがとうございます。私はこれまでの人生で、「参ったな」と感じた時期が二度ありました。一度目は大学を中退し、就職氷河期の中で仕事が見つからなかったときです。6年間に籍しながら中退したことは、今でも後悔しています。当時は努力しても内定が得られず、年齢や学歴を問わない求人に応募しても、書類選考で落とされるような状況でした。

転職は思いがけないところから訪れます。人材派遣会社に登録し、清掃会社に派遣された私は、オフィスビルのトイレ清掃を担当していました。そこで出会った方の縁から金融機関で働く機会を得ます。そして2005年、政治の大きな動きを調べる中で、自民党の候補者公募を知りました。論文試験に応募し、面接を重ねた結果、衆議院議員総選挙に出馬することになり、26歳で初当選を果たしました。

しかし順風満帆な時期は長く続きません。二度目の「参ったな」は、落選によって無職となり、家庭を抱えた状態で将来が見えなくなったときです。そんな折、テレビ番組から出演依頼を受けました。結果的にその出演が評価され、現在の活動へとつながっていきました。望んで選んだ道ではありませんが、今は「この経験ができてよかった」と心から思っています。

これまで多くのリーダーを間近で見してきましたが、活躍する人には共通点があります。それは、常に機嫌が良いことです。機嫌の良さは人を引き寄せ、情報や知恵、そして信頼を集めます。反対に、不機嫌さは周囲に伝染します。だからこそ、自分より立場の弱い人こそ、礼儀正しく接することが重要です。

私が心がけている「常にご機嫌でいる秘訣」は三つあります。一つ目は、空腹のまま人に会わないこと。二つ目は、予定を詰め込みすぎないこと。三つ目は、ユーモアを忘れないことです。清掃の仕事をしていた頃も、周囲を少しでも明るくしようと工夫していました。小さな心配りが、人との縁をつくるのだと思います。

皆さんには、ぜひ大学で多くを学び、卒業後は地域や社会で人が集まる存在になってほしいと思います。人生は何が起きるかわかりません。しかし、前向きな姿勢とご機嫌な心があれば、思いがけないチャンスは必ず訪れます。



鈴木裕 国際医療福祉大学病院長 特別講演

「次世代型外科治療」——治すだけの医療から、治し、生活を支える医療へ——

外科治療はこの十数年で大きく進歩し、特に消化器外科分野において日本は世界をリードする存在となっています。かつては医師が主導して治療を行う時代でしたが、現在は多職種が連携するチーム医療へ、そしてこれからは患者自身が治療に参画する医療へと変化していきます。近年では、学会の場で患者が自らの経験を発表し、医療者と議論することも珍しくなくなっています。

私自身、2022年に白血病を発症し、約1年間の入院生活を体験しました。治療に伴う重篤な副作用により、生活の質は著しく低下しました。命は助かって、生きること自体が苦しい——その現実を患者の立場で体験したことで、医療者としての価値観が大きく揺さぶられました。医療とは単に命を救うことではなく、その人らしい生活を支えるものでなければならないと強く感じました。

現代医療は救命率を飛躍的に高めてきた一方で、臓器切除による不可逆的な機能障害という課題も抱えています。消化器外科では、術後の栄養障害や生活機能の低下が避けられない場合も多いです。近年はロボット手術や腹腔鏡手術の普及により

低侵襲化が進み、術後の回復は早まっていますが、臓器欠落による影響は生涯に及びます。だからこそ、病変の除去と生活の質の維持、そのバランスが重要となります。

今後求められるのは、年齢やADL、認知機能、社会的背景を踏まえた個別化医療です。AIやDXを活用し、退院後も自宅で継続的なフォローアップができる体制づくりが必要となってきます。また、がん治療においては早期発見が極めて重要で、特に日本では健診受診率の向上が課題となっています。

外科治療は命を救う技術であると同時に、人生を支える哲学でもあります。治すだけでは足りない。治し、生きる力を取り戻す医療へ——それが次世代型外科治療のめざすべき姿です。



第14回「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト表彰式

身近な体験から医療・福祉を考える作品が多数

第14回「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト(主催・国際医療福祉大学、毎日新聞社、後援・文部科学省、全国高等学校長協会)の表彰式が11月30日(日)、東京赤坂キャンパスの講堂で開かれた。

昨年に続き今回も「医療と福祉、わたしの体験」「誰かのために、私ができること」「多様性を認め合う社会をめざして」の3つをテーマに作品を募集。自身の生活や体験を通して、医療や福祉に目を向けるきっかけとなるエピソードや思いが綴られた作品が多数寄せられた。応募総数1,583作品を厳正に審査した結果、最優秀賞には、静岡県・静岡学園高等学校2年、代永夢空さんの「『できない』を『やめない』」が輝いた。優秀賞には、東京都・渋谷教育学園渋谷高等学校1年、畑澤琉衣さんの「かわいそうな女の子からの卒業」が、佳作には栃木県・佐野日本大学高等学校2年、坂野未来さんの「向日葵」と、愛知県・光ヶ丘女子高等学校2年、杉田遥香さんの「支える手を、つなぐ未来へ」が選ばれ、審査委員長の鈴木康裕・国際医療福祉大学学長から表彰状や楯などが贈られた。個人賞では、このほかに入選4人が選出された。(氏名・作品名・学校名はウェブサイトの「結果発表」のページに掲載している。)



団体応募校を対象に「特別表彰」を新設

団体での応募数や入賞者数などを基にした学校賞は、茨城県江戸川学園取手高等学校、山梨県駿台甲府高等学校、宮城県立宮崎西高等学校の3校に授与され、過去に優秀な作品を数多く応募した学校に贈られる特別表彰には、神奈川県・相洋高等学校が選ばれた。

開会の挨拶で鈴木学長は「審査にあたっては毎回、高校生の皆さんの瑞々しい感性と真摯な表現に触れられることを楽しみにしながら、拝読しています。本学は、建学の精神に『共に生きる社会の実現』を掲げています。今回応募して下さった高校生の皆さんが、それぞれの体験を通してこの理念を真摯に考え、行動に移そうとしている姿に触れ、審査を通じて誇らしい気持ちを抱きました。こうした感性豊かな皆さんが、将来、医療や福祉の現場、あるいは社会のさまざまな分野で仲間となってくださることを、心から願っています」と祝意を述べた。

「前向きなメッセージに審査委員一同励まされた」 毎日新聞社元村客員編集委員

審査委員を代表して、毎日新聞社の元村有希子客員編集委員は「皆さんの作文から気づかされるが多く、毎年私に刺激を与えてくれるのがこのコンテストの審査です。いくつかの作文の共通点でもあった、目の前の困難から目を背けず、前向きに生き方の指針を得る姿勢に、弱いようで本当は強い存在である人間の本質を見ることができました。『共に生きる』とは、自分のつらさや周囲の困りごと・孤独・寂しさに、いかに目を向け、どんな行動ができるかを考えることから引き出されるのではないかと思います。実際に行動に移すと途方に暮れるものだと思いますが、将来をきちんと見据えて書かれた皆さんの作文を読むと、こちらが励まされる気持ちになりました。つながり合い、助け合う。困ったときには自分からちゃんと助けを求められる大人になってくれることが、私からの皆さんへのお願いです」と述べた。

受賞を記念して、出席した受賞者による作品の朗読も行われた。最優秀賞の代永さんは修学旅行の

日程と重なり表彰式を欠席したため、朗読の様子を録画したビデオが流された。(表彰式にはご両親が出席し、代理で表彰状を受け取られた)。受賞者自らの体験や思いが綴られた内容に、会場から温かい拍手が送られた。

閉会の挨拶で、山本尚子・国際医療福祉大学副学長が「自分を見つめ、他者を思い、迷いながらも歩みを進める皆さんの姿勢に、私自身も励まされる思いがいたしました。医療や福祉の現場は、人と人が支え合う場です。今日の経験を胸に、どうか自分の言葉を大切にしながら、これからの道を進んでいただきたいと思います」と締めくくり、高校生作文コンテスト表彰式は幕を閉じた。

【受賞者のコメント】

■最優秀賞 静岡県・静岡学園高等学校2年 代永夢空さん

外出中に受賞の知らせを見て、一人で泣きました。驚きと喜びと同時に、授賞式に出られないことが発覚し、不安でいっぱいでした。それでも受賞させていただいて本当に嬉しいです。友達や先生など、多くの方が読んで褒めてくださり、自分の経験を大切にしようと思いました。



■優秀賞 東京都・渋谷教育学園渋谷高等学校1年 畑澤琉衣さん

受賞の一報が届いた時、喜びと同時に本当に1型糖尿病を私の個性、強みとする覚悟はあるのかと問われている気がしました。1型糖尿病は誤解の多い病気でもあります。私の作文を通して今まで1型糖尿病を知らなかった人が病気に興味を持ち、正しく理解してくれる人が増えたら嬉しいです。



■佳作 栃木県・佐野日本大学高等学校2年 坂野未来さん

佳作内定というご連絡に、思わず「きゃあ!」と悲鳴を上げました。驚きと嬉しさの中、お受けしますという返信さえ手が震えて思うように打てませんでした。私の拙い文章を見つけていただき、評価していただいたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。



■佳作 愛知県・光ヶ丘女子高等学校2年 杉田遥香さん

受賞の報せを聞いて驚きましたが、その後じわじわと実感が湧き喜びがこみあげてきました。すぐに祖母の施設へ行き「お祖母ちゃんのことを書いた作文で賞をもらったよ」と報告したら、祖母もとても喜んでくれました。本当にありがとうございました。



●表彰式に参加した個人賞・学校賞受賞者の皆さん

Group Topics グループトピックス①

IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します

「国際医療福祉大学市川総合病院」の開院

「東京歯科大学市川総合病院」を承継し、4月より新たに開院

本学は、学校法人東京歯科大学が運営する「東京歯科大学市川総合病院」(千葉県市川市)を承継することについて合意し、事業譲渡契約を締結した。承継により、当病院は2026年4月1日より、「国際医療福祉大学市川総合病院」として新たに開院する。

【承継の背景】

本学は、東京歯科大学から当病院を無償で譲渡したいとの申し出を受け、地域医療の混乱を防ぐこと、医学部をはじめとした学生の

教育および実習の施設として活用できることから、当病院を承継することとした。

また、当病院内に東京歯科大学の歯科講座を引き続き設置し「歯科医師教育における医学教育・医科歯科連携を学ぶ場」として、歯学部学生、歯科衛生学科学学生の実習の受け入れ、臨床研修歯科医師の受け入れを行い、教育に必要なスペースや設備を提供するとともに、医科との連携を学ぶための万全な教育体制を整えていく。(広報部 山崎香里)

本学名を冠した初の海外病院「国際医療福祉大学モンゴルインターメッド病院」開院

モンゴル「インターメッド病院」運営会社と資本業務提携 ～「国際医療福祉大学インターメッド病院」に改称、技術指導と人材育成を推進～

2025年12月25日、本学グループとモンゴルのインターナショナルメディカルセンターLLC(IMC、インターメッド病院の運営会社)は、本学による出資と日本式人間ドック、遠隔診断システムの導入、病院運営および人材研修支援を柱とした資本業務提携に合意し、基本契約を締結した。

締結式には、本学から高木邦格理事長、鈴木康裕学長、IMC側から親会社MCSのオドジャルガル会長、IMCのニャムトグトCEOが出席。バイサルサイハン駐日モンゴル大使、小林弘之・元駐モンゴル大使も同席した。本提携は、本学からの支援および技術移転を通じて、モンゴル国民に質の高い医療サービスを提供し、モンゴルにおける医療の質を向上させることをめざす。

2026年3月には、病院名を「国際医療福祉大学インターメッド病院」と改称する。本病院は本学名を冠した初の海外の病院となる。

【提携の背景】

インターメッド病院は2014年に開業し、モンゴルで唯一、国際的な医療品質認証JCIを取得した総合病院で、同国の医療水準を牽引する存在である。モンゴルでは医療インフラの老朽化や専門医不足により、毎年数万人が海外で治療を受けている。こうした課題に対応するため、インターメッド病院はアジア開発銀行の融

資を受け、80床の新病棟建設や地方クリニックの展開を進め、医療アクセス改善に取り組んでいる。本学は今回の提携を通じて、予防から診断・治療までを包括する世界水準の医療体制構築をめざし、日本式健診システムや遠隔診断ネットワークの整備、最新医療機器の導入を支援する。これにより、モンゴルの医療レベル向上と国民の健康増進に貢献する。

【人材育成への貢献】

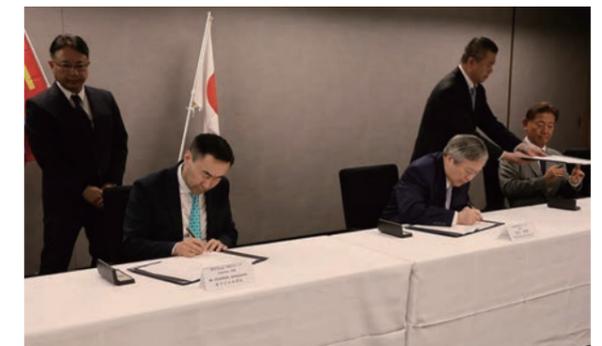
本学は、2015年にモンゴル国立医科大学と学術交流協定を締結して以来、留学生教育や奨学金制度を通じてモンゴルとの信頼関係を築いてきた。本学は、医療福祉専門職を養成するため、IUHW奨学金制度などの奨学金制度を整備し、フルスカラーシップでモンゴルからも留学生を受け入れ、卒業までの学費・生活費を支援してきた。言語聴覚分野や公衆衛生学専攻など大学院での学びの機会も提供している。

今回の提携により、本学グループ病院・施設での研修生の受け入れや、本学からの医療福祉専門職派遣による技術指導などを通じ、モンゴルの医療福祉分野や、専門職育成への支援をより一層強化していく。

(広報部 山崎香里)



●MCSのオドジャルガル会長と高木邦格理事長を中心に記念撮影



●締結式でサインするオドジャルガル会長と高木理事長

大田原キャンパス

第30回風花祭 バザー売上金を大田原市社会福祉協議会へ寄付しました

第30回風花祭において開催された風花祭実行委員会によるバザーの売上金90,925円を、12月10日、大田原市社会福祉協議会へ令和7年大分市佐賀県大規模火災義援金として寄付した。

このバザーは、引き取り手のない学内の落とし物を活用できないかといったアイデアから生まれた。学生や教職員にも協力を呼びかけたところ、数多くの品物をご提供いただき、落とし物を含め、文具や食器など幅広い種類の品物を出品することができた。当日はたくさんの方々がバザー会場にお越しになり、盛況のうちに終わることができた。



●売上を寄付する清水実行委員長

風花祭実行委員長の清水奨平さん(医療福祉・マネジメント学科2年)は、「たくさんの方に協力いただき、売り上げを寄付することができた。これからもこういった活動を続けていきたいです」と話し、今回の取り組みに対する感謝の気持ちと今後の期待を述べた。(学生課 渡邊陽子)



●カフェテリア棟2階に設けられたバザー会場

東京赤坂キャンパス

医療マネジメント学科1年次「国際医療福祉大学成田病院見学」

2025年12月6日、医療マネジメント学科1年生51人を対象に、国際医療福祉大学成田病院の見学を実施した。当日は学生を4班に分け、はじめに病院概要や各部署(診療情報管理室、医事課、総務課、地域医療連携室、予防医学センター、国際室)についての説明を受け、先輩事務職員からのお言葉もいただいた。その後、国際ホールや医事課、ER・救急外来、診療情報管理室など院内各所を約1時間15分かけて見学した。実際の医療現場を間近に見学するとともに、質疑応答を通じて病院で働く職員の声の伺うことができ、病院運営への理解を深める貴重な機会となった。

(事務部 名本さり)



●病院概要の説明を受ける参加者

小田原キャンパス

救急医療を実践的に学ぶ「絆Rescueサークル」設立

今年度、小田原キャンパスに「絆Rescueサークル」が設立された。本サークルは、災害医療、災害リハビリテーション、救急医療について、正課授業に加えて実践的に学ぶ機会を提供し、卒業後に専門分野として活躍できる知識・技術の習得を目的としている。

2025年12月22日には、熱海病院DMATおよび小田原消防の皆さまをお招きし、BLS (Basic Life Support: 心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置) 講習会を開催した。

講習では、胸骨圧迫の正しい方法やAEDの適切な使用手順、チームで連携して救命活動を行う重要性について、

実技を交えながら学んだ。参加した学生にとって、「いざという時に行動できる力」を身につける貴重な学びの場となった。

絆Rescueサークルでは、今後も地域医療機関や関係機関と連携しながら、実践的な学びを深める活動を継続していく予定だ。(学務課 久保和之)



●熱海病院DMATも参加



●小田原市消防の方による講習

成田キャンパス

千葉県大学企画提案型パラスポーツ促進事業・ポッチャ教室を開催しました

2025年12月15日、成田キャンパスでは、千葉県大学企画提案型パラスポーツ促進事業の一環として、地域の高齢者や障がいのある方、そのご家族を対象としたポッチャ教室を開催した。定員の50人を超える申し込みがあり、多くの参加者で会場にぎわった。

当日は、理学療法学科・作業療法学科の学生が中心となって運営を担当し、ルール説明や投球の補助、声かけなどを通して参加者一人ひとりに寄り添ったサポートを行った。白熱した試合や自然な交流が随所に生まれ、世代や立場を超えて楽しめる時間となった。(理学療法学科 岡道綾)



●幅広い年齢層が楽しめるポッチャ



●運営に携わる理学療法学科・作業療法学科の学生



●参加者でにぎわう成田キャンパス体育館

大川キャンパス

「第25回日本感染看護学会学術集会」を開催

2025年8月23日・24日、三橋睦子看護学科長が会長を務める「第25回日本感染看護学会学術集会」が福岡国際医療福祉大学にて開催された。本学科教職員の協力のもと、全国から304人(うち看護職121人)が参加し、活発な議論が行われた。

会場運営には、看護学科の3年生を中心とした学生10人が実行委員として参加。総合受付、誘導、来賓対応、展示会場の運営などを担当し、プログラムにも参加しながら学

会運営を学ぶ貴重な機会となった。

学術集会では、三橋学科長が会長講演「変容する医療と政策看護：持続可能性への看護のむきあい」を行い、吉川千恵子教授がシンポジウム「国際アクセス感染症」の座長を務めた。

(広報担当 帆足りえ)



●当日の会場となった福岡国際医療福祉大学



●日本感染看護学会学術集会

2025年度に活躍した学生紹介

体育会系部活動・サークル活動での成績優秀者

2025年度に全国各地で行われたスポーツ大会には、本学の学生も数多く参加し、優秀な成績をおさめた。近年ではスポーツ大会の種類も豊富で出場のための条件等もさまざまだが、ここでは主に、参加者数が多く、規模の大きい大会で優れた結果を残した個人や団体を紹介する。

2025年度 主なスポーツ大会で優秀な成績をおさめた学生・団体

大会名	開催日	成績	所属団体	キャンパス	学科	氏名
第79回東日本医歯薬看護学生水泳競技大会	6月1日	100mバタフライ優勝	成田水泳部	成田	医学科	天笠美希
第68回東日本医科学生総合体育大会	8月6日、7日	水泳競技 女子バタフライ100m優勝、女子バタフライ50m準優勝	成田水泳部	成田	医学科	天笠美希
	8月8日～9日	ボート競技 女子シングルスカル優勝	漕艇部(ボート部)	成田	医学科	村上結李子
	8月10日、11日	ボート競技 女子ダブルスカル3位	漕艇部(ボート部)	成田	医学科	謝伊帆
	8月10日、11日	陸上競技 女子100m準優勝、女子200m準優勝	陸上部	成田	医学科	長谷川玲子
第18回全日本保健学生卓球大会	8月13日～15日	陸上競技 女子800m準優勝、女子1500m準優勝	陸上部	成田	医学科	プラトン 瑠花
	8月18日～20日	卓球競技 男子シングルス優勝	IUHW TTC(卓球部)	成田	医学科	丸山蒼葉
		男子団体戦優勝、男子シングル3位、男子ダブルス3位	卓球部	大田原	作業療法学科	鈴木優弥
		男子団体戦優勝、男子ダブルス3位	卓球部	大田原	理学療法学科	笹沼星矢
		男子団体戦優勝	卓球部	大田原	理学療法学科	関塚隆晟
		男子団体戦優勝	IUHW TTC(卓球部)	成田	看護学科	神達希天
男子団体戦優勝		IUHW TTC(卓球部)	成田	医学検査学科	片寄優人	
第79回国民スポーツ大会 わたSHIGA輝く国スポ2025	10月2日、3日	成年男子六段障害飛越競技 3位	個人	大田原	理学療法学科	廣田大和
		成年男子標準障害飛越競技 12位	個人	大田原	医療福祉・マネジメント学科	船橋友希那
		成年女子二段障害飛越競技 17位	個人	大田原	医療福祉・マネジメント学科	船橋友希那
		成年女子ダービー競技 11位	個人	大田原	理学療法学科	廣田大和
令和7年度全日本医科大学ゴルフ連盟秋季大会	11月2日	優勝	個人	成田	医学科	飯泉玲奈
第25回栃木県学生空手道選手権大会	12月7日	男子個人組手 第3位	空手道部	大田原	薬学科	箱崎寛人
		男子団体組手 第3位	空手道部	大田原	—	空手道部
		男子個人組手 第3位	空手道部	大田原	看護学科	長嶋恵汰
		女子個人組手 準優勝	空手道部	大田原	視機能学療法科	吉成京樺
		女子個人組手 第3位	空手道部	大田原	薬学科	大田結心
		女子個人組手 第3位	空手道部	大田原	看護学科	大里春七
		女子団体組手 準優勝	空手道部	大田原	—	空手道部
		女子団体形 第3位	空手道部	大田原	—	空手道部
第52回全日本学生スカッシュ選手権	12月6日～9日	女子の部 準優勝	個人	小田原	看護学科	坂田日葵



●大田原・成田キャンパス 卓球部



●大田原キャンパス空手道部 箱崎さん



●大田原キャンパス 空手道部



●成田キャンパス 水泳部 天笠さん



●成田キャンパス卓球部 丸山さん



●大田原キャンパス 廣田さん



●成田キャンパス 漕艇部 村上さん



●成田キャンパス 飯泉さん



●小田原キャンパス 坂田さん

学生の学会受賞紹介

第51回日本診療情報管理学会学術大会で大田原キャンパス4年生(医療福祉・マネジメント学科)ら9人が「最優秀賞」「プレゼン賞」ダブル受賞

医療福祉・マネジメント学科(坂本ゼミナール)の4年生ら9人が、2025年8月28日～29日に埼玉県さいたま市で開催された第51回日本診療情報管理学会学術大会の学生セッションで口頭発表を行い、「最優秀賞」と「プレゼン賞」をダブル受賞した。最優秀賞は「外来・入院リハビリテーション分析から見る病院収益向上の鍵を探して」、プレゼン賞は「ICUにおける入室期間延長の実態と患者特徴の調査」と、いずれも実社会に直結するテーマを扱った研究であり、分析データから経営改善シミュレーションまで明らかにした点が高く評価された。約1年間にわたる学生らの熱心なプロジェクト研究への取り組みが、この素晴らしい成果に結びついた。

第84回日本公衆衛生学会総会にて本学SPH第一期生モヌさん(ブータン)、レックさん(タイ)、およびゲゲさん(モンゴル)国際参加者賞受賞

国際医療福祉大学公衆衛生専門職大学院(SPH)に在籍する2年生の留学生3人が、2025年10月29日～30日に開催された第84回日本公衆衛生学会総会で、国際参加賞を受賞した。国際参加賞は、学会総会において優れた発表を行った外国人演題発表者に授与される。

今回の受賞者8人のうち3人が本学の留学生で、いずれもSPHの一期生として奨学金を受けて学ぶ学生。一期生の留学生全員が揃って受賞する快挙となった。



●国際参加賞を受賞した左からモヌさん、レックさん、ゲゲさん

<受賞理由>

モヌさんの研究は、ブータンにおけるレプトスピラ症の疫学的実態を初めて明らかにしたものであり、同国の感染症対策に資する基盤的知見として高く評価された。レックさんとゲゲさんの研究は、抗菌薬の使用実態を分析することで、AMR(薬剤耐性菌)対策に向けた政策立案に貢献する重要な成果。抗菌薬の多用によるAMRの出現は、世界的な公衆衛生課題であり、両名の研究はその解決に向けた一助となるものである。

<受賞者と研究テーマ>

Mr. Monu Tamang (モヌさん、ブータン)

発表タイトル

Sero-epidemiology of human leptospirosis in subtropical Bhutan

研究概要

ブータン南部地域における住民のレプトスピラ症の血清学的疫学調査。同国で初めて雨季における感染リスクを明らかにした。

Dr. Chaiyun Boonyosawat(レックさん、タイ)

発表タイトル

Association of Rotavirus vaccination with Antibiotic prescription in Thailand

研究概要

ロタウイルスワクチンの導入が、タイにおける抗生剤処方傾向に与える影響を分析。

Ms. Danzan Gerelmaa(ゲゲさん、モンゴル)

発表タイトル

Outpatient Antibiotic Prescribing Patterns for Acute Respiratory Infections in Mongoli

研究概要

モンゴルにおける急性呼吸器感染症に対する外来での抗生剤処方パターンを、地域・年齢別に分析。

医学部3年生が日本アレルギー学会関東地方会で優秀演題賞受賞

2025年12月13日に東京都の秋葉原コンベンションホールで開催された第14回日本アレルギー学会関東地方会において、医学部医学科3年生の幸村咲花さんが「スギ舌下免疫療法終了後の長期経過における労働生産性の検討」を発表し、優秀演題賞を受賞した。

幸村さんは、今年度より運用されている特待選抜プログラムを活用し、耳鼻咽喉科学教室および公衆衛生学教室で舌下免疫療法が労働生産性に与える影響について研究を進めている。今回の受賞はこれまでで最年少であり、特待選抜プログラムによる早期研究体験(Early exposure)が良い成果を生み出すことを示す結果となった。



国際医療福祉大学成田病院



病院長 吉野 一郎

令和8年(2026年)は、干支で申しますと「丙午(ひのえうま)」の年にあたります。「丙」は火のエネルギーを、「午」は前進する力を象徴し、変化の中でも力強く進む年とされています。医療を取り巻く環境は、物価高騰に加え病院・病床再編などの不透明感など、決して平坦ではありませんが、冷静さと覚悟、そして前向きな行動力が求められていると感じています。高度で先進的な医療を担う大学病院として、そして地域の医療を守る基幹病院としての2つの使命を着実に果たしていく所存です。

本年が皆様にとって健康で実り多い1年となりますことを心より祈念しております。本年もご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学病院



病院長 鈴木 裕

国際医療福祉大学病院は、学術の研鑽と地域医療の実践という2つの翼を大きく広げ、未来へと飛翔することを宿命としております。医学が日進月歩で進化するなか、私たちは「地域に根ざし、世界を見据える」という揺るぎなき理念を羅針盤に、今年も確かな歩みを刻んでまいります。時に向かい風も吹きますが、当院はむしろその風を上昇気流に変える気概で臨んでおります。

当院は、診断から治療、術後ケア、緩和医療に至るまでを一貫して担う包括的医療を礎とし、地域の皆様の人生に寄り添う医療を追求してきました。人口減少と高齢化が進む日本において、医療は単なるサービスではなく、地域の未来を形づくる根幹です。私たちは地域医療機関との連携をさらに強固にし、「誰もが安心して生まれ、育ち、働き、老いることのできる社会」の実現に向け、静かに、しかし揺るぎなく力を尽くしてまいります。

どうぞ変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国際医療福祉大学三田病院



病院長 池田 佳史

昨年は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、社会保障費の増大、労働力不足、医療・介護体制の維持困難などが懸念される「2025年問題」に突入し、社会保障制度の見直し、介護人材の確保、企業へのDX推進が行われてきました。病院を取り巻く状況も、物価高騰・人件費上昇により、民間と公立病院を合わせた病院の経常利益率は平均で3.9%の赤字となり、赤字病院は全体の7割弱に上ったと報告されています。三田病院もきびしい状況ですが、職員の皆様の尽力のおかげで徐々に好転してきています。ありがとうございます。

2026年は午年です。「塞翁が馬」の精神で一喜一憂せず、地道に歩んでいきたいと思っております。本年もよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学市川病院



病院長 須田 康文

地域におけるリハビリテーション、療養型医療への需要の高まりと急性期病床の稼働状況を鑑み、昨年6月、急性期病床の一部を回復期リハビリテーション病床へと転換しました(急性期92、回復期リハビリテーション79、療養44、結核45)。さらに、4月から当グループに加わる市川総合病院との連携強化に寄与するべく、今年早期に病床の再々編を計画しております。4月から病院名も「市川メディカルセンター」に改称することから、今年を現市川病院のリボーンの日と位置づけ、地域の皆様の医療ニーズにより丁寧にお応えできるよう、職員一同努力してまいり所存です。引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学塩谷病院



病院長 佐藤 敦久

2026年は丙午ですが、60年に一度めぐる干支で、火の性格を二重に持つ情熱的でエネルギー豊かな年とされています。私たちが皆様のご協力を仰ぎながら、さらに質の高い医療をご提供できるように邁進したいと思っております。今年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて当院は、昨年10月から矢板市の協力のもと、病児保育施設を開設しました。病児保育は共働きの家庭などで病気になった子供を一時的にあずかるサービスです。市のかかげる、保護者の子育てと仕事の両立を支援する大切な取り組みです。

今年も地域の皆様に信頼、期待される病院となるよう努力をしていきたいと思っております。

国際医療福祉大学熱海病院



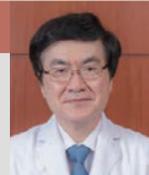
病院長 中島 淳

昨年は、患者様をはじめとする皆様の温かいご支援とご協力を賜り、無事に1年を終えることができました。感謝申し上げます。

昨年末に発足した高市政権は、医療・介護の再編や診療報酬改定などの制度変革を進めており、病院経営に大きな影響が予想されています。さらに、診療報酬は2026年度に改定され、地域包括ケアの推進がますます重要視されています。また、日本は依然として急速な高齢化が進み、「超・後期高齢社会」へと突入しています。団塊世代の多くが75歳を超え、高齢者医療や慢性疾患への対応が喫緊の課題となっています。

物価高や人件費・医療材料費の上昇は全国の医療機関経営を圧迫し、多くの病院がきびしい状況に直面しています。こうした環境下においても、当院は静岡県東部、伊豆半島全域、神奈川県西部の医療を支える中核病院として、患者様一人ひとりに寄り添い、安心・安全な医療をご提供する所存です。

山王病院



病院長 藤井 知行

社会はコロナウイルス流行前の日常を取り戻しましたが、病院受診者は減少したままで、どの病院もきびしい運営を強いられています。山王病院のモットーは、「患者様本位の医療の提供」です。当院では、診療科での対応がむずかしい場合に総合診療チームがフォローする医師チーム制や、出産後の育児や生活の支援を目的とした産後ケアの導入など、患者様本位の医療サービスをめざし、病院機能のさらなる強化を図っています。幸い、わが国の少子化が進む中でも、当院の出産数は増加しています。今後も患者様の健康回復と維持を第一に考え、患者様からのご支持を得て、病院の運営を安定させる努力をしてまいります。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

高木病院



病院長 筒井 裕之

昨年も、地域の基幹病院として年間3,000件以上の救急を受け入れるとともに、質の高い医療を安全にご提供することができました。感染症対策を継続しながら、献身的に診療に従事した全職員に心から感謝いたします。当院は、急性期病院としての医療提供体制の充実に継続的に取り組んでおり、昨年は心臓血管外科、リウマチ・膠原病内科、予防医学センターがさらに強化されました。福岡山王病院や福岡中央病院とも連携し、昨年以上に診療提供体制を充実させ、『皆様に信頼される病院、地域の先生方に信頼される病院、そして何よりも働く職員が信頼できる病院』をめざして取り組んでまいります。本年もご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉リハビリテーションセンター



センター長 下泉 秀夫

昨年、開設25周年を迎えた当センターは、心身に重い障害を持つ児(者)の療育病棟や医療的ケアに対応した短期入所などの基幹サービスをご提供するだけでなく、本年も行政および教育機関・保育施設への情報提供や健診・発達相談等への医師・コメディカルスタッフの派遣、医療的ケアを必要とする児(者)や家族を支援するコーディネーターの養成など、専門性を生かした外来機能の提供にも力を注いでまいります。また、グループの医療機関や施設とも緊密に連携しながら、地域で唯一無二の価値を磨き、一層のサービスの向上に努めたいと思っております。

本年も、ご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 学位記授与式・卒業式 / 令和8年度 入学式 日程

	令和7年度 学位記授与式・卒業式	令和8年度 入学式
大田原キャンパス	令和8年3月9日(月) 11:00~ 大田原キャンパス 那須アスリーナ(体育館)	令和8年4月10日(金) 11:00~ 大田原キャンパス 那須アスリーナ(体育館)
成田キャンパス	令和8年3月15日(日) 11:00~ 国際医療福祉大学成田病院 成田国際ホール	令和8年4月12日(日) 11:00~ 国際医療福祉大学成田病院 成田国際ホール
東京赤坂キャンパス	令和8年3月14日(土) 11:00~ 東京赤坂キャンパス 講堂	令和8年4月7日(火) 11:00~ 東京赤坂キャンパス 講堂
小田原キャンパス	令和8年3月13日(金) 11:00~ 小田原キャンパス 本校舎 講堂	令和8年4月6日(月) 11:00~ 小田原キャンパス 城内校舎 体育館
大川キャンパス	令和8年3月11日(水) 13:00~ 大川キャンパス 講堂	令和8年4月3日(金) 11:00~ 大川キャンパス 講堂
塩谷看護専門学校	令和8年3月6日(金) 10:30~ 塩谷看護専門学校 講堂	令和8年4月9日(木) 10:00~ 塩谷看護専門学校 講堂

大田原キャンパス

～大田原市出身 明治のナイチンゲール 大関和～

2026年度前期のNHK連続テレビ小説「風、薫る」では、職業看護婦（現・看護師、トレイドナース）の道を切り拓いた大関和と鈴木雅の生涯をモチーフにした物語が放映される。大関和は幕末に黒羽藩（現在の市原市）の家老の娘として生まれ、看護の専門性と社会的地位の確立に尽力した、日本の看護師第一号とされる人物である。

本学がある大田原市出身の大関和が全国で紹介されることは、本学と地域にとって大きな誇りである。主演の見上愛さんが9月に大田原市役所を訪問した際には、看護学科の学生も歓迎した。今後は授業やオープンキャンパスを通して大関和の業績を学ぶ機会を設けていく予定である。どうぞお楽しみに。

（看護学科 北原玉依）



●見上愛さん(中段真ん中)と大田原キャンパスの学生たち

ペットボトルふた開けでできる、どこでも簡単にできるフレイルチェック

高齢者にとってペットボトルのふたを開ける動作は、日常生活で頻繁に行われる一方、筋力低下により困難となることがある。浦野友彦教授（成田キャンパス医学部老年病学講座）との研究チームにて、この身近な動作に着目し、ふたを開けられない、あるいは開けにくい場合に、心身の衰えの兆候であるフレイルの可能性が高まることを明らかにした。特別な機器を必要とせず、誰でも実施できる点が特長であり、地域や在宅における健康チェックなど幅広い社会的活用が期待される。研究成果は以下の国際学術誌に掲載された。

Sawaya Y, Urano T, et al. Geriatr Gerontol Int 2025;25(7):905-910.

Sawaya Y, Urano T, et al. Phys Ther Res 2025;28(1):37-44

（理学療法学科 沢谷 洋平）



●ペットボトルのふたをあける動作

国際医療福祉大学成田病院

毎冬恒例 病院を彩る癒しのイルミネーション

2025年12月17日、当院の冬の風物詩となった「イルミネーション点灯式」を開催した。開院以来、6回目を迎えるこの活動は、地域を支える地元企業である山崎電設工業株式会社のご厚意によるもの。「医療従事者を応援し、来院される方々にも心温まるひとときを過ごしてほしい」という和やかでやさしい思いが込められており、当院北口玄関前が鮮やかな光に包まれた。

点灯式には、成田市の宮田洋一副市長・福島真司副市長、小池正昭衆議院議員、成田市観光キャラクター「うなりくん」をはじめ、当院の吉野一郎病院長、坂尾誠一郎副院長、伊藤淳子看護部長などが参加し、カウントダウンでスイッチを押すと、樹々への電飾に加え、飛行機やうなりくんを模した色鮮やかなオブジェが一斉に点灯し、冬の夜空を美しく彩った。このイルミネーションは、1月10日まで点灯した。

（総務広報課 畠山実大）



●イルミネーション点灯式

国際医療福祉大学病院

脳神経外科の中富医師執刀「手術見学」第2弾～カリフォルニア大学などの医師3人が来院～

2025年11月4日、米国カリフォルニア大学からNicole Jiam教授とEthan Winkler教授、さらに神経耳科、頭蓋底外科の世界的権威で米国神経耳科学会教育部門長のDuane Welling医師の3人が、当院脳神経外科の中富浩文医師による「聴神経腫瘍摘出手術」を見学するため来院した。

中富医師は、自身が開発したDNAP（聴覚モニタリング）とFREMAP（顔面神経モニタリング）を用いた術式により後遺症リスクを軽減、世界水準を大きく上回る聴力温存率を達成している。そのため、見学した医師たちの目的は、「米国の臨床現場にもDNAPシステムを導入する可能性を探ること」、「中富医師の手術哲学を若手外科医教育に生かすこと」の2点。

なお、中富医師による「聴神経腫瘍摘出手術」は同年10月16日にも行われ、その際にはスウェーデン国立ルンド大学の医師3人が見学。今回の手術見学は当院で2度目の事例となり、こうした海外大学の医師との交流は、当院にとっても有意義なものとなっている。

（総務課 平野幸宏）



●執刀中の中富医師と、その手技を観察するカリフォルニア大学の医師たち



●手術終了後の中富医師、カリフォルニア大学の医師、スタッフ他で集合写真

国際医療福祉大学三田病院

長野県松本県ケ丘高等学校が 企業訪問で来訪

2025年12月8日、企業訪問の一環として、長野県松本県ケ丘高等学校の1年生が当院に来訪した。今回は、将来医療職を志す5人の生徒から要望のあった、心臓外科、皮膚科、リハビリテーション科、救急部、薬剤部について、医師・薬剤師・看護師による講義のほか、リハビリテーションセンターの見学を行った。

医師の講義では、各診療科の特徴およびやりがいについてお話しし、看護部長と薬剤部長からは、各専門職の魅力や将来性、大学病院で行う仕事について説明した。約90分という短い時間ではあったが、各分野で積極的に質問を受け、大変有意義な時間となった。

生徒の皆さんからは、「医療の現場は内科や外科、救急や各専門職がかかわって成り立っていることがわかった。医療職をめざすうえでは勉強だけでなく、協調性も必要だと強く実感した」など、率直な感想をいただいた。

（総務課 山本悦子）



●救急部の講義の様子



●リハビリテーションセンターの見学

国際医療福祉大学市川病院

江原副看護部長が「千葉県看護功労者知事表彰」を受賞

当院の江原由美副看護部長が「令和7年度 千葉県看護功労者知事表彰」を受賞。2025年11月18日、千葉県庁で表彰式が行われた。

1967年度から続くこの表彰は、千葉県内で勤務する看護師や保健師で、看護職歴が30年以上かつ20年以上県内の医療機関で貢献している人などに授与されるもので、今年度は20人が表彰された。

江原副部長は1993年に入職。以来、当院に貢献し、看護部門に欠くことのできないキーパーソンである。受賞にあたり、江原副部長は、「このたびは名誉な表彰を受け、大変光栄に思います。長い期間、看護師を続けてこられましたのは、看護職であることに誇りとやりがいを持っていること、何より入職以来、折々に職員の皆様を支えていただいたおかげです。今後も、チームの一員として努力してまいります」と述べている。江原副部長の献身的な働きに、当院一同改めて敬意と感謝を表している。

（総務人事課 高田聡）



●表彰状を手にする江原副部長

国際医療福祉大学熱海病院

クリスマスイベント キャンドルサービスとコンサートを開催

2025年12月20日、当院恒例のクリスマスイベントであるキャンドルサービスおよびクリスマスコンサートを開催した。

キャンドルサービスには、本学の小田原キャンパスをはじめ、静岡県立看護専門学校、常葉大学の看護学生が参加し、各病棟にてキャンドルを灯しながらクリスマスソングを歌い、病室を訪問。ささやかなプレゼントをお渡しし、学生たちの協力のおかげで患者様と心温まるひとときを共有することができた。

また、地下1階大会議室では、小田原キャンパス軽音楽部とアンサンブルサークルによる「ジングルベル」「戦場のメリークリスマス」などの演奏と歌が披露された。さらに、研修医（勝見仁：チェロ、真田大勢：ヴァイオリン）と職員（木村玲於奈：ピアノ）による演奏、佐藤哲夫名誉病院長によるピアノ演奏「道化師の朝の歌」が行われ、会場は終始やさしい和やかな雰囲気にも包まれた。

最後は、会場に集まった患者様と職員全員で「きよこの夜」を合唱、イベントを締めくくった。お帰りになる患者様のこやかな笑顔がとても印象的で、少しでも入院生活の負担を和らげる機会になったのではないかと感じた。

（総務課 鈴木佳寿真）



●キャンドルサービスで病室を訪問



●小田原キャンパスの軽音サークル

山王病院

Kissポート健康まつりに山王・三田病院が参加～地域向け講義を開催～

2025年12月20日、赤坂区民センターにて、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）主催の「健康まつり」が開催された。当グループからは山王病院と国際医療福祉大学三田病院が参加し、地域貢献および病院広報の一環として、それぞれの専門性を生かしたブースを出展した。当院は「リハビリ専門職に聞く！身体の動き相談&体力測定会」を実施。握力測定や筋肉量測定の結果をもとに、理学療法士・作業療法士が個別にアドバイスをし、来場者の健康維持を支援するとともに、同法人の関連施設の利用促進を図った。一方、三田病院は「お肌の健康の最先端～ワクチンや注射、レーザーまで～」と題し、皮膚科部長の森村壮志医師が講義をした。ワクチンから最新のレーザー治療に至るまで、皮膚科領域における幅広い知見を紹介した。

当日は、多くの18歳以上の港区在住・在勤者が来場。従来の健康講座とは異なる層との直接的な交流は、両施設の取り組みを広く周知する機会となった。今後も、こうした活動を継続しながら、医療を通して地域社会の健康増進に貢献していく。

（総務課 茂木彩）



●リハビリスタッフによる 身体の動き相談会



●講義の様子

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

大川キャンパス

軟式野球部



●練習後に記念撮影

こんにちは！国際医療福祉大学福岡薬学部2年の塚原蓮です。僕たち軟式野球部は、野球をしたいメンバーが集まって2025年度に始動しました。週1回の練習、月2回の試合を行っており、みんなで楽しく野球をしようというモットーを掲げています。試合では勝ち負けも大事ですが、それ以上に「全員で一つのプレーを作る楽しさ」を感じられる瞬間があり、普段の勉強の良いリフレッシュにもなっています。野球未経験の部員も多くおり、初心者経験者関係なくみんなで楽しく活動しています！



●皆で1つのプレーを作る楽しさを実感する瞬間

また、学部や学年の垣根を越えて仲が良く、活動後にご飯を食べに行ったり、応援に来てくれた友達と交流したりと、大学生活ならではの雰囲気を楽しめるのも魅力の一つです。道具の貸し出しも行っているので、手ぶらでも参加できます。野球を始めたい、野球をしたいと思っている方はぜひ気軽にグラウンドに立ち寄りみてください！



●試合前の緊張感あふれる1枚

軟式野球部 部長
福岡薬学部 2年
塚原 蓮



●学部も学年もさまざまなメンバー

ご寄附のお願い

高い志を持つ医療人を1人でも多く育てるために

開学30周年を迎えた国際医療福祉大学は、ほぼすべての医療福祉専門職を養成することができる数少ない大学のひとつとして、これからも学生の高度な教育・研究のための環境を向上していく所存です。将来の医療福祉分野を牽引する医療人を1人でも多く育てるために、ぜひみなさまからのご寄附をお願いいたします。

amazonふるさと納税

大田原市・大川市 大学支援事業寄附金について

- 大学支援事業寄附金を指定して、大田原市・大川市にふるさと納税すると、寄附金の95%が大田原市・大川市から国際医療福祉大学に補助金として交付されます。
 - 上限額[※]までは、いくら寄附しても実質負担は2,000円。
 - 大田原市・大川市在住の方でも寄附できます。
- ※上限額は収入や家族構成等によって決まります。

大田原版▼

大川版▼

amazon
ふるさと納税
サイト



国際医療福祉大学開学30周年記念募金

開学30周年記念募金 募集概要

1. 募金名称 国際医療福祉大学開学30周年記念募金
 2. 募金目的 大学各キャンパスおよび附属施設の教育研究環境の充実を図るための以下の資金に充当
 - 学部・大学院研究機能の強化
 - 校舎や運動施設の整備
 - 奨学金の充実
 - 基礎医学の教育研究強化
 - 薬剤師育成に向けた学修環境の充実
 3. 募集期間 2023年6月～2026年6月
 4. 目標額 30億円
 5. 募金金額 個人 1口 10,000円
法人 1口 100,000円
- ※ご寄附は任意でございます。

詳しくはこちら▼

